

## 255年

### 正元二年（魏）

#### 皇帝

曹髦（魏高貴鄉公）

#### 皇后

卞氏（父は卞隆）

#### 三公（魏）

太傅：（空位）

太尉：司馬孚

司徒：高柔

司空：鄭冲

#### その他の要職（魏）

?尚書事：司馬師 司馬昭（大將軍）

太常：

光祿勳：

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：司馬師 司馬昭（前衛將軍）

驃騎將軍：王昶（前征南大將軍）

車騎將軍：郭淮（死去）

衛將軍：司馬昭 胡遵（前征東大將軍）

#### 地方官

揚州刺史：文欽（逃走）

雍州刺史：王經

## 主な事件

- ▶ 正元二年春正月乙丑、鎮東將軍の?丘儉、揚州刺史の文欽が叛く。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 正月戊寅、大將軍の司馬師は征伐に赴く。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 正月癸未、車騎將軍の郭淮が薨ず。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 閏月己亥、文欽を樂嘉に破り、文欽は遁走し遂に呉に奔る。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 閏月甲辰、安風津の都尉が?丘儉を斬り、都に首を送ってきた。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 閏月壬子、また淮南の士民諸が?丘儉?文欽の為にたぶらかされた者を特に赦した。鎮南將軍の諸葛誕を鎮東大將軍と為す。司馬師が許昌で薨ず。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 二月丁巳、衛將軍の司馬昭を大將軍と為し、?尚書事とす。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 二月甲子、呉の大將孫峻等は兵十萬と号し寿春に至る。諸葛誕は之を打ち破る。呉の左將軍留贊を斬る。捕虜を京都に献上する。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 三月、皇后に卞氏を立てる。大赦。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 夏四月甲寅、後の父卞隆を列侯に封じる。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 甲戌、征南大將軍の王昶を驍騎將軍と為す。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 秋七月、征東大將軍の胡遵を衛將軍に、鎮東大將軍の諸葛誕を征東大將軍と為す。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 八月辛亥、蜀の大將軍姜維が狄道を攻め、雍州刺史の王経が?西で戦い、王経は大敗する。戻って狄道城を保つ。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 八月辛未、長水校尉鄧艾を以って行安西將軍と為し、征西將軍の陳泰と力を合わせて姜維を拒む。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 八月戊辰、太尉司馬孚を遣わして後ろに続かせた。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 九月庚子、帝は尚書の学業を終え、聴講し、親しく授けてくれる司空鄭沖?侍中鄭小同等に各々格差があつて下賜した。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 九月甲辰、姜維は退却した《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 冬十月、詔して「私の徳が薄く、寇虐を滅ばせない、蜀賊が陸路を侵入してきて?西で戦ったが破れた。多くの將士が死亡し合せて千數を数える。私は深く痛み不憫で悼む。所在の郡の典農及び安撫夷二護軍の各部の大吏に令して門?を回り慰撫させた。賦役を一年免除した。力戦して死んだ者は皆舊科の如くにし遺漏のないようにさせた《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 十一月甲午、隴右四郡及金城は連年敵を受け、ある者は亡くなり、或る者は叛いて賊に投じたりして、その親戚で本土に留まっている者は不安として、皆特に之を赦した。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 十一月癸丑、詔して「?西之戦に従軍し、將士民であるいは戦って死んだもの、あるいは?水に溺れ沈んだ者は今だ骸骨も回収できず、原野に棄てられている。私は日頃から之を悼む。征西、安西將軍に告げる。戦没及び水死者の亡骸を求めて回収し、慰霊せよ《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》

## 誕生者

## 死没者

郭淮（車騎將軍）

司馬師（大將軍）